

TOKYO JC NEWS

~ Let's Tokyo JC 's Hot Communication! ~



JC宣言
日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱領
われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

今、動き出す「志民社会」

— Jayceeから起こす、限らない推進力(ちから)を東京から —

2002.7.15
vol.393

VISUAL CONTENTS



理事長対談
(財)日本相撲協会理事長 北の湖敏満氏.....2



5月例会が開催されました
アジア太平洋国際都市会議.....4



特集「社会保障制度改革」
その先に見えるもの.....5



中野区長選挙公開討論会
レポート.....8



第5回港区国際フットサル大会



ちょっとおじゃまします
中長期ビジョン策定会議.....9

contents

- 6 地区委員会事業 PR
 - ・中野区委員会 新経済市民アカデミーin中野
 - ・中央区委員会 わんぱくKID S in宇佐美
 - ・台東・墨田区委員会 わんぱくトライアスロン
 - ・新宿区委員会 わんぱくベンチャー2002
 - ・千代田区委員会 真の自立国家とは 日本の歩むべき道
 - ・北区委員会 地域教育in北区 地域が支える教育
- 8 ASPACレポート
- 9 LOM便り (社)仙台青年会議所
FIFA World Cup™ 観戦記
気になる1冊
- 10 委員会便り 政治行政政策 / 経済政策 / 渋谷区 / 目黒区 / 練馬区 / 杉並区
- 11 TWOWAY COMMUNICATION
・Welcome to Tokyo JC ・JCの魅力、再発見
- 12 9月例会
わんぱく相撲全国大会

理事長対談

平成14年6月3日(月)日本相撲協会理事長室で
 出席者：北の湖(財)日本相撲協会理事長
 西野晃透(社)東京青年会議所理事長
 谷田 泰 同副理事長(司会)



今年も「わんぱく相撲」の季節がやってきた。1977年に「東京の魅力度調査」の結果を踏まえて開催されたわんぱく相撲も「第1回東京場所」から数えて早や26年目を迎える。わんぱく相撲開催に当たっては(財)日本相撲協会からの絶大な支

援があることを見逃せない。そこで理事長対談第2弾は今年2月から相撲協会理事長を務める北の湖理事長(元第55代横綱北の湖)にご登場願ひ、大相撲からわんぱく相撲まで、大いに話してもらった。

谷田副理事長(司会) 新理事長になられているいろいろお考えになっていることがあると思いますが...

北の湖理事長 満員御礼が少ないし、人気低迷していると言われてます。この1年、貴乃花が休場し、他の力士も怪我が多いのでファンに物足りなさが残っている感じはしますが、全員そろえば土俵の充実と相撲人気回復もできると信じております。

谷田 子供料金改定のお話を新聞で見ただけですが、

北の湖 課外授業、体験学習ということを学校で取り入れたと聞いておりますから、ご協力できればいいかなと思って考えました。

谷田 わんぱく相撲でもいろいろご協力頂いていますが、子供に相撲を取らせる良さというのはどんなところにあるとお考えでしょうか。北の湖 青少年の健全な育成ということについては「心の育成」と思っただけでいいんじゃないかと思ひます。

西野理事長 相撲道には「心・技・体」という要素がありますが、心の部分をわんぱく相

撲を通して青少年に培ってほしいと事業をしております。わんぱく相撲は、1976年に「東京の魅力度」調査をしたんですが、東京の子供たちは遊び場が少ないところから、心・技・体、そして勝つ喜び負ける悔しさを培うことができる国技・相撲を通して青少年の健全育成に寄与できないかと26年前に始まったんです。今は全国5万5,000人の子供たちが参加している大きな大会になりました。

北の湖 都道府県大会の代表として国技館に来るんですが、5万人以上の代表という熱さがあると思ひます。父母や指導する方も一致団結して、代表として頑張してほしいという気持ちが各大会に行くとき伝わってきます。私も地区大会に行きましたが、わんぱく力士は目がきりっとしています。それより一番大きかったのはお母さんの声ですけどね。それだけ一生懸命やっているということじゃないでしょうか。

西野 保護者、地域で支える方々を入れると何十万人という方がわんぱく相撲にかかわってきている。ここで何か今の時代にふさわ

しいものを発信できればと思っています。子供たちが負けて泣くんですね。今の子供たちは感受性がないと言われてるんですが、すごくほっとしたんです。

北の湖 負けて悔しがり、ご両親と一緒に悔しがらる。勝ったら一緒に喜び、その辺にコミュニケーションが図れるということもありますね。勝っても負けてもまたバネにして頑張るという気持ちが見えますね。

西野 家にもこもりがちの子供たちが多くなっていますが、わんぱく相撲で外で遊んで勝つ喜び負ける悔しさを培ってほしいという事や、1対1でぶつかり合い肌で痛さを感じるところも大事だと思うんです。

北の湖 わんぱく相撲は地区大会を通してそれをやっていますね。それに勝ち負け、礼儀作法もついてきますから、青少年の健全な育成になっているのじゃないかと思ひます。谷田 親方としてこれから青年になっていくお子さんを預かる点で、教育的な視点も当然必要になってくるのかなと思ひますが...。北の湖 中卒から高卒のお子さんを預かり

炭焼ステーキの贅を識る。

選ばれた良質の三田牛と磨かれた技が創る最高のおもてなしを。

コース料理のご予約はお二人様以上でお申し込み下さい。

度々飼育と少なく、きめ細やかな愛情を込め、育てられます。値段的には高価ではありますがこの管理された黒毛和牛の肉質を、会社創業以来追求し続けそれに見合う、焼く技術を持っていると自負しております。どうぞ美味しいステーキをお召し上がり下さい。

美味さ・技術の追求

「黒毛和牛(肉牛)」と云われる品種の産地、三田(但馬)・近江・松坂などでは、古くから血統による管理を行い、子牛より登録、氏・素性が明記され、血統書により飼育・管理されます。子牛の父・母・両方の祖父母・曾祖父母及び繁殖者が明確に解る仕組みになっております。又品質の高い黒毛和牛は少数頭を一軒当り2~3頭、多い人で10頭程度飼育と少なく、きめ細やかな愛情を込め、育てられます。値段的には高価ではありますがこの管理された黒毛和牛の肉質を、会社創業以来追求し続けそれに見合う、焼く技術を持っていると自負しております。どうぞ美味しいステーキをお召し上がり下さい。

本店 新橋田村町

103(3543)7214 営業時間12:00~23:00
 分店 築地STEAK 103(3591)8765 営業時間12:00~23:00
 定休日/第2日曜日のみ カード(DN・AX・DC・JCB他)有

自然の恵&ステーキは.....

炭焼ステーキディナー(7月コース料理)

房州産活鮎のソテー 哥利歐風
 鮪鎌の備長焼
 キューカンパのサラダ
 炉焼温パン・温野菜
 但馬三田牛炭焼ステーキ
 自家製ヘルシーケーキ
 特製ブレンド布ドリップコーヒー
 お一人様¥18,000(税・サ別)

夏の疲れた体に冷製野菜入りガスパチョスープをご用意しております ¥2,000
 お中元 ご贈答用に但馬三田牛すき焼き、しゃぶしゃぶ用・刺身、塩焼き用 生肉をご用意しております。

本店 新橋田村町

103(3543)7214 営業時間12:00~23:00
 分店 築地STEAK 103(3591)8765 営業時間12:00~23:00
 定休日/第2日曜日のみ カード(DN・AX・DC・JCB他)有

Own Peerless Beef ひとつひとつに個性があるSTEAK

鷹皮文月(7月)炭焼ステーキディナー

房州産活鮎の酒蒸しカクテル
 遠州産鰯のフレッシュトマトソース
 海の公爵夫人サラダ 生雲丹添え
 炉焼温パン・温野菜
 特撰三田牛炭焼ステーキ
 岡山産白桃ネクターフラップ
 特製ブレンド布ドリップコーヒー
 お一人様¥45,000(税・サ別)

旬の逸品
 真穴子の備長焼...¥4,000
 自家高温燻製サーモン...¥4,000
 活鮎の備長グリユ(要予約)...¥時価

【謹製三田優秀牛】

贈った方も贈られた方にも、希少な贅沢さと特別な価値が伝わり大変ご好評頂いております。数に限りがございます。お早目にご予約下さい。ご希望の方には「ご案内・注文書」をお送り致します。

本店 新橋田村町

103(3591)8765 営業時間12:00~23:00
 分店 築地STEAK 103(3543)7214 営業時間12:00~23:00
 定休日/日曜日・祝日 カード(DN・AX・DC・JCB他)有

御贈答用

本店 新橋田村町 鷹皮
 謹製三田優秀牛
 すきやき・しゃぶしゃぶ
 塩焼用に。
 又、ローストポーク等。
 各店にてご予約承ります。

ますが、中卒の子供の場合、礼儀作法を余り知らないんです。ですから挨拶、人との接し方を第一歩として教えています。私の場合は13歳で相撲の世界に入りましたから、見て覚える、教えてもらったことを守る、これが一番大事でした。

谷田 わんぱく相撲では、ことば 広げよう、心に届くありがとうと挨拶とか感謝の気持ちなどをキーワードにしたテーマを掲げておりますが、このテーマについて、また、感謝について何か感じられることはございますか。

北の湖 単純にばっとお子さんにわかるテーマが一番いいんじゃないか、また、大人にもわかるような形で言われた方がいいんじゃないかと思います。

西野 子供たちが荒れる教室や、参観日に来た親御さんたちのお喋りで授業が成り立たないところも今の教育現場にあるんです。親がそういったことを感じていかなければいけないところがあると思います。

北の湖 私2回ほど授業参観に行ったことがあるんです。私はネクタイを締めて行ったんですが、他の親はトレーニングウェアを着たり犬を抱いたりしていました。親も道徳は守らなければいけないと思います。子供だけではなくて親にもわかるように言った方がいいんじゃないかというのは、そういう意味合いもあるんです。

西野 モラルある人づくり運動も、わんぱく相撲の大きな役割でもあるんですが、「広げよう、心に届くありがとう」というのは、今の子供たちは思っていることをなかなか表に出さない。言葉に出したり手紙とか形にしないと本当は伝わらないんだよと、このテーマで感謝の気持ちをしっかり伝えていこうということです。大人はそういったことを理解して皆で受け止めていこうと掲げているんです。

北の湖 テーマは確かにいいことだと思います。当日、会場には親御さんも来ております。子供と大人が本当に心と心が一致することが大切だと思いますから、わんぱく相撲力士だけでなく、ほかの方にもできるだけ伝わっていったらいいと思います。

西野 青年会議所なりに地区大会のいろん

な意義を感じているんです。学校が週5日制になって地域で子供たちの教育を支えていこうという流れになりました。例えば防災訓練、交通安全教室、環境教育など、わんぱく相撲をやりながら土俵の外で様々な催しが行なわれていて、地域の役割というのが本当に叫ばれていると思います。今後も地区大会の中で地域教育をうまく向上できればと考えております。

北の湖 一番感じるのは教育の一環としてやっているという点です。心の鍛練はわんぱく力士はまだ小学生ですから難しい面はありますが、やはり親と子が一つになっている、それは十分伝わっていると思います。教育も大事ですが、親と子供が輪になっていくという大事さは、それ以上の徳があるというんでしょうね、私はそこを一番感じます。

西野 社会に写し出されている問題をわんぱく相撲を通して解決できるような大会にしていければ、さらに意味を持つてくると思います。

北の湖 小さいときからそういう環境であれば、大人になっても自然と心のゆとりを持てる青年に育っていくと思うんです。これからもそういうものをモットーにして、青年会議所は青少年育成のために努力していってほしいと思います。

西野 心・技・体、礼儀、勝つ喜び負ける悔しさなど青少年の情操教育さらに環境や福祉の部分までわんぱく相撲を通して発信していければと思っております。ぜひ、日本相撲協会のご協力をいただければと思います。

北の湖 何か一つに目を向ける点でもわんぱく相撲は一番いいし、ご両親も一番身近にあるところだと思うんです。一緒に輪になっていくということは、どんどん友達もできます。青少年の健全育成は私達もできる限りの協力はさせていただきます。

西野 先日子供の運動会に参加したんですが、今は結果平等主義みたいな形で、早い子は早い子同士で徒競走に出したりするんです。もっと勝つ喜びも負ける悔しさもしっかり体感してほしい。勝ち負けがはっきりする相撲は、子供の競争意識を培う上で非常に

大切な側面はあるような気がします。北の湖 大相撲の世界でも生活面また稽古などで嫌になる場合もあると思うんですね。しかし、勝つ喜びを知るということは、それだけ前向きな気持ちでいけるようになります。勝った喜び負けた悔しさをバネに努力する、そこにつながっていければいいんじゃないかと思います。

西野 わんぱく相撲の中で、礼をするときにしっかり「お願いします」と言う。礼儀をわかってもらって帰ってほしいと思います。

北の湖 そうですね。土俵が上がったときは「お願いします」という気持ちで、負けたときはお互い「ありがとうごさいました」という気持ちが一番大事じゃないでしょうか。

西野 今の子供って心の中にあるものをしっかり表現する術がだんだん苦手になっているような気がするので、表に出して伝えなければ伝わらないんだよという部分を、わんぱく相撲の中で何とか表現をしていきたいと思っています。

北の湖 心では思うんですが中には恥ずかしさと照れで言えない子もいると思うんです。今度はその辺もテーマにして考えていただければいいかなと思います。

谷田 最後に、北の湖理事長から、わんぱく力士、関係者、親、JCメンバーに対して、これだけは言っておきたいということがあればお伺いしたいと思います。

北の湖 わんぱく力士のなかには地区予選で敗れる子もいます。代表になれなくても、4年生、5年生、6年生3学年出られますので、4年生の子が常に目標を持って努力していけば、必ずどこかで勝って報われますから頑張してほしいと思います。父兄の方には親の力は大事ですから、子供が心から頑張れるように親子で心が伝わるような形で努力してほしいと思います。

北の湖敏満氏の略歴

財団法人日本相撲協会理事
本名 小畑敏満
昭和28年5月16日生れ 北海道有珠郡出身
179 cm 169kg
中学一年生で初土俵を踏み、21歳2ヶ月の最年少記録で第55代横綱に昇進、昭和60年1月場所まで引退するまで優勝24回、幕内在位78場所、幕内成績804勝247敗107休、殊勲賞2回、敢闘賞1回
2002年2月より時津風前理事長の後をついで日本相撲協会理事長を務める。



第6回 アジア太平洋国際都市会議 (APICC)

第6回アジア太平洋国際都市会議 (APICC) が、「ThinkDifferent & ActforUnity」をテーマに、東京、ソウル、台北、香港ビクトリア、シンガポールシティ、マニラ各JCと中華全国青年連合会の代表が参加して(社)東京青年会議所主管のもと、5月16日、ホテル日航東京で開催された。

15日 ▶ウェルカムパーティー

前日15日にはウェルカムパーティーが、関係者およそ70名が出席しお台場アクアシティのレストラン「To theHerbs」で行なわれた。

午後7時この日來日した各都市参加者が続々と到着。はじめに西野東京JC理事長が「東京へようこそ。明日は長丁場の会議になります。今夜はリラックスして各地の参加者と友好を深めてください」と挨拶。長岡専務理事の「チアーズ」で乾杯、歓談した。当日誕生日を迎えた海外LOMメンバーに、全員で「ハッピーバースデー」を歌ってバースデーケーキをプレゼントするシーンも見られ、和やかな会となった。

16日 ▶第6回アジア太平洋国際都市会議

午後2時、APICC参加各代表団が会場「ペガサスの間」のメインテーブルに着き、いよいよ第1部・第6回アジア太平洋国際都市会議の開催。参加者およそ200名(海外からの参加者25名)

まず、東京JC西野理事長が「APICCから世界へ、アジアへ有意義且つ有益なものを発信していこう」と挨拶。続いて本橋国際政策担当理事が「アジアの若きリーダーたちが一堂に会し、政治・経済体制の違いや価値観の違いを乗り越えて、共通のビジョンのもと各LOM・各都市・各国・地域の思いが調和

できるような会議にと趣旨説明した。

各団体の紹介のあと、村田浩敏政策顧問を議長に「環境問題」について協議が進められた。東京JCから「中国植林ミッション」の報告があり、これを受けて中青連からは「このミッションによって中国青少年の環境に対する意識が大きく向上した」との報告があった。ソウルJCからは黄砂被害の実態が報告され、「環境問題は一国では解決できない。各国、各地域との連携が必要だ」との意見が出された。

その後各JCからは、水不足、マングローブ開発、核廃棄物処理など様々な環境問題が提示されたが、次世代への環境教育が重要なこと、30年後も責任が持てるJC世代が今解決へ向け行動に移さねばならないことなどが確認された。

次に「アジア経済活性化」について協議が行なわれた。「FTA(自由貿易協定)」構想について、EUやNAFTAの例をあげてその必要性を認めながらも、各国経済格差、国内経済格差、文化の違いなど様々な問題がありすぐに実現するのは困難との認識が示された。アジア全体の経済的ステージを上げるためにも、各国の経済的強みを生かし弱みをカバーできる体制が望ましい。小さな分野から少しずつでも実現するべく努力しようとの意見が出され、第一部を終えた。

16日 ▶5月例会-21世紀のアジア

~経済・環境そして平和

午後6時第2部5月例会開催、登録者数およそ400名。通常セレモニーに続き、本橋理事が第一部の概要を説明、西野理事長が「東京宣言(案)」を朗読し各参加LOMが持ち帰って合意に向け検討する事になった。

NYで収録した緒方貞子元国連難民高等

弁務官の「グローバル化した社会では一国平和主義、一国繁栄主義は許されない。市民社会を強化し市民主導の共同体作りが必要」とのビデオメッセージが流され、これを受けて平副理事長をコーディネーターに各都市代表がパネリストとして登壇、米国同時多発テロについて各パネリストから感想が述べられた。

北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)への援助問題、テロ対策などが話し合われ、アジア共同経済圏に関して再度協議された。97年のアジア経済危機を教訓にして共同経済圏は前向きに考えるべきだが、すべての人に利益をもたらすためにも幾つかのルールが必要だとの認識が示された。それぞれの国、地域の違いを超えて安定した平和なアジアを作ることが重要であり、二国間で解決できないことも様々な国・地域が入ることで解決の糸口が見えてくる、こうした機会に言いたい事が言える多くのアジアの仲間を作ろうと提案された。最後に川口外務大臣の「他国の文化、政治、宗教的多様性を正しく認識し、地域の平和と発展のあり方をまずアジア諸国との関係において考えていくことは、同時多発テロ事件後の世界の平和を考える際、大きな手がかりとなることでしょう」との応援メッセージが読み上げられて例会を終了した。

例会後の懇親会では参加各LOM代表から西野東京JC理事長に記念品が贈られ堅く握手、アジアの友情の輪が会場いっぱい広がって、8時間に及んだAPICC・5月例会は成功裡に幕を閉じた。



詳細はホームページでご確認ください。
<http://www.tokyo-jc.or.jp/>

バリアフリーから ユニバーサルデザインへ

従来のバリアフリーに代わりユニバーサルデザイン(以下=UD)の概念は、出来る限り多くの人利用可能であるように製品・建物・空間・サービスをデザインすることと定義されている。UDにおいては「健常者」という言葉を「Contemporary-Ability(今現在健康である)に置き換える事により「すべての人が人生のある時点で何らかの障害を持つ」という事を発想の起点としている。例えば、多くの女性は妊婦を経験する、又健常者の代表格のようなプロスポーツ選手は骨折によって戦線を離脱する。ゆえにUDには可哀想な人のために何かしてあげようという慈善はない。この点でこれまでのバリアフリーデザインとは大きく異なる。又、原則として「誰にでも公平に利用でき、使い方が簡単で使う上で自由度が高い」と謳われている事も併記しておく。本年度、福祉政策委員会ではこのUDを社会の福祉意識の新しい概念と捉え、わが国の福祉政策の基本である社会保障制度に反映させるべきと考えている。

社会保障制度改革の アウトライン

わが国の社会保障制度はマスコミで連日のように取り上げられている通り、現在未曾有の財政危機に陥っている。その要因は、超高齢化と少子化 パブル崩壊後の長期景気の低迷に代表されるが、これを機に社会保障制度の本来の在り方を議論し、抜本的な改革を断行すべきところが、相変わらずパッチワーク的・つじつま合わせの改革に終



始している始末である。我々の考える社会保障制度の在り方とは、諸外国と比べて所得や身分を超えた分厚い制度の維持ではなく、公的扶助を含めた最低限の保障を行政が行うことであり、それ以外のサービスは企業やNPOが提供し、コンシューマーが選択するというものである。現在の社会保障制度の中では、介護保険法がこれにもっとも近い。多くの規制が敷かれ、全国一律の仕組みで実施された為に、必ずしも十分な制度には至っていないのだが、少なくとも要介護状態にある人々の介護に関する分野については、当事者の意向を尊重しながら(自己決定権の確保=介護保険法第2条)ニーズに応えて行くという趣旨を持った法律である。又、この制度は最初から食事や移送サービスを除外しており、介護中心であるために家事援助や心のふれあいに十分な配慮がなされて

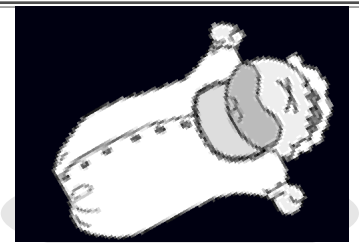
特集

「社会保障制度改革」 その先に見えるもの

いないことも特筆に値する。なぜならば、介護保険法において全ての介護ニーズをカバーするとすれば、保険料を極めて高く設定しなければならず、又将来に渡っての制度の維持が困難になるからである。これは、医療制度が社会的入院を許容することによって、制度が成りゆかなくなってきた誤りを再度犯さない為にも必要な限定措置である。このような観点に立つならば、この制度で足りない部分をボランティア活動やNPO活動でサービスを提供するという、つまり公的サービスと民間の自主的サービスの両輪でニーズに応えるのである。別の観点から言えば、保険料や税金を高く払わない代わりにボランティア活動で汗を流そうと言う事も出来る。

地域福祉コミュニティの創造

我々が目指す社会保障制度の在り方は先



に記した通りであるが、それを実現させるためには、地域における住民主体の福祉サービスの充実が不可欠である。逆に言う「地域福祉コミュニティ」創造に向けた社会保障制度改革と言えるのかも知れない。地域住民が公的扶助を含めた最低限の社会保障制度の恩恵に授けられなくても、自立した人間であり続ける為にも地域が担う役割は大きいと考える。さて、この場合主体としての「地域」をどこに定義するのが問題となるが、幸い日本の都市では、江戸期の伝統を引き継いで明治期以来、「向こう三軒両隣の唯の人」たちが自然に町内会を作るという文化がある。この町内会の特徴は、世帯単位の加入来住時点での自動加入 成員に様々な援助・協力をする 成員は組織活動への協力義務を持つ 行政の補完機能 清掃・衛生活動に典型

的な共同作業の実施 地域内の親睦機能(自治体行政への圧力団体機能を持つ)などに整理できる。最近では、高齢化の進行を受けて高齢者にとっての新たな社会参加の基盤、自治活動の基盤という認識も強まっている。以上のことから町内会を地域福祉コミュニティの主体と位置付ける事はごく自然であると思われる。我々は今後、地区委員会等と連携し、NPOをはじめ諸団体を巻き込み、「地域福祉コミュニティ」のモデル作成を通してより実効性ある提言を行政に投げかける事が必要であると考えている。最後に我々は「Jaycee」であることに関わらず、これらの事案に関して主体的に行動していくことがこの国に生きる民として当然の義務である事を肝に銘じてこの項を結ぶ。

福祉政策委員会副委員長 荒堀禎和

COLUMN

21世紀に入り、社会の福祉概念は、ノーマライゼーション・バリアフリーからユニバーサルデザイン(以下=UD略)へと移行しつつある。社会からバリアを取り除く為には、既存のバリアを除去するのみならず、社会制度にUDを導入し、新たなバリアの発生を防止する必要がある。このUDの導入には、設計段階からバリアの発生を防止するハード面のUDは勿論のこと、最初から社会にバリアを作り出さない心、ソフト面のUDが両輪として機能しなければならない。社会制度にハード・ソフトの両面から

UDを導入することにより、福祉的配慮の行き渡った町づくりが実現すると共に、新たな需要の喚起等、経済・教育・環境等社会全体に無限大の可能性を与え得る。私共、福祉政策委員会では7月例会において「ユニバーサルデザイン型社会」の実現に向け、国家の制度改革と国民の意識改革を推進し、誰もが安心して暮らせる社会を目指し、本年度第1弾として社会保障制度の画期的変革を提言致します。

福祉政策委員会 委員長 深野重人



地区委員会 事業



いよいよ7月に入り、各地区委員会事業が花盛りとなります。

それぞれ地域の問題点と特色を調査し、議論に議論を重ねた上で開催にこぎつけた、いわば東京JCの活動の原点がここにあります。

是非足をお運びください。

新経済市民アカデミー in 中野

中野区委員会 実行委員長 塚本徳明

～学校・家庭・地域で育てよう地域の子どもたち～

中野区委員会では、一昨年、昨年と小学校の総合的な学習の時間を活用した環境教育の事業を展開してきました。本年度は、中野区立第九中学校の2年生に対して「新経済市民アカデミー in 中野」という消費経済を中心としたテーマ（特にお金や消費生活に関わる権利や義務など）で総合的な学習の時間を活用した事業を行います。自己責任の原則が強まる社会で健全な消費生活や勤労観を育むプログラムを我々中野区委員会のメンバーが教師となって実際の授業で教えていくものです。

事業は第1部の学校での教室学習と第2部の地元企業での社会体験実習の2部構成です。第1部の教室学習は、7月12日（金）の授業でまずオリエンテーションとして親子で子どもたちの将来について親の経験談や人生観をもとに話し合ってもらいライフプランにまとめる宿題を出します。9月13日（金）の授業では、前回の宿題の結果を題材として、生徒を6～7人のワー

て社会における自己責任の原則を学び、個人の責任や権利と義務に関し



ての認識を深め、その大切さを理解してもらいます。第2部は、9月27日（金）に学校の近隣商店街や企業を中心として社会体験実習を展開します。実社会での生きた知識や経験に触れる機会を設けることで、教室学習での理解を補足し、働くことやお金を稼ぐことの大変さを実習の中からも理解を深めていきます。

事業の全体を通じて東京JCが提唱する「スクールオアシス構想」の実践を行うことで家庭・学校・地域がそれぞれに理解を深め、商店街と学校の活性化を促進し、学校・地域・家庭が三位一体となった地域運動のできる土壌の構築を行いたいと考えています。

『自然とふれあおう! わんぱくKIDS!』

中央区委員会 委員長 生田與克



今年で3年目を迎える教育社会体験実習『自然とふれあおう! わんぱくKIDS!』は昨年大好評だった、海あり山あり自然あふれる静岡県伊東市宇佐美で開催いたします。（8/8～11）

特に今回は農業収穫体験、水産加工体験という仕事を通して直に自然に触れ、体感し、そして自然の尊さ、環境の大切さを子供達に感じてもらいます。滞在中は異なった学年で構成されたグループ毎に共同生活を行い、野菜収穫、収穫した野菜を使っのカレーコンテスト、アジの干物作り等を行います。

宿泊は、海と山に囲まれた自然あふれる中央区立宇佐美学園です。普段は学校ですので広い校庭、体育館やプールは勿論、沢山の遊具も用意されています。また学園内敷地には小高い丘がありちょっとした森林探検も出来ます。

全寮制の学校ですので宿泊施設はとても素晴らしいものです。宇佐美学園に宿泊するだけでも、とても楽しい夏の思い出が作れることでしょう。

過去2年間の経験を踏まえ、事業終了後（9月下旬）父兄と教育についてのディスカッションを行います。特に家庭での子供達との関わり方を共に考えてまいります。これには行政・教育委員会にもご参加いただき、皆で『生きる力のあるたくましい人』づくりを考えていきます。

このように子供達が楽しさの中から様々なことを学び取っていける事業です。皆様のご参加ご協力を委員会をあげて心よりお待ちしております。

わんぱくトライアスロン

台東区・墨田区委員長 佐久間 淳・井上輝夫

「わんぱくトライアスロン」は台東区ならびに墨田区の小学校4、5、6年生を対象に1988年以来、台東区・墨田区行政や財団法人台東区芸術文化財団の協力を得て、推進・実施してきた事業です。この事業は、子供達の心身の鍛練と健康の増進を図る事を主たる目的として、開催するもので、特別なトレーニングを必要としないで完走できる距離（スイム100m・バイク5km・ラン2km）のミニトライアスロン競技を行います。

「わんぱくトライアスロン」も今年で15年目をむかえ（9月1日）地域に根づいた事業として毎年700名を超える選手の参加をいただき、また、ボランティアの方々など大会に関係してくださる方々を数えると2500名を超える規模になっています。ボランティアも地域の様々な団

体の方々、個人の方々に実行委員として広く参加いただき、地域の企業にも広くご賛同いただいております。地域活性化に大きな役割を果たしています。

参加した子供達に「わんぱくトライアスロン」を通し、苦しくてもやればできるんだという達成感、多くの人々が見守る中の緊張感と同時に応援してもらえる喜び、そして身近にある自然の素晴らしさを実感してもらうことで普段の学校生活では味わえない感動を体験してもらいたいと考えています。

また、この事業に携わる大人達を見ることで、社会に奉仕する事の大切さを理解してもらい、卒業した後、後輩の為にボランティアとして参加することはもちろん、様々な社会貢献を率先して出来るような青少年の育成の

一助になればと願っています。

子供たちだけでなく、私たち大人にとっても選手が真剣に最後まであきらめずに完走する姿にはこころ打たれるものがあり忘れかけていたものを思い出させてくれる事業です。子供たちと直接触れあい、地域一体となった教育ができる事業であると考えています。



本年も新宿区委員会のベンチャープログラム「わんぱくベンチャー2002」が開催されます。昨年までのベンチャーキッズの事業名称改め本年も更にパワーアップして開催されます。

わんぱくベンチャーでは本年も夏休みに新宿区内の中学生を集め、模擬起業体験学習を行います。子供達は5人1チームを結成し自ら会社を起し商品の企画・原材料の仕入れ・製造・販売を行い目的達成までのプロセスを体験し達成することの喜び、厳しさを体験し夢を現実にする大切さを学びます。本年は保護者を中心とした大人チームも参加し夏休みの一時期、大人と子供とが同じ視点で触れ合い地域の中での教育について実践的に体験をします。

また本年はこの事業が3年目を迎える年でありここで地域のリーダーたる大人と、未来のリーダーである子供達を総括的に考える「フォーラム」の開催を事業のもう一つの柱として展開していきます。「ゆとり教育」が本年度より導入され公立学校を中心に完全週休2日制が実施されました。マスコミを中心にこの

制度の欠点は大きな話題となっています。しかし私達、新宿区委員会はこの制度を子供と大人が地域に帰る1つのチャンスとして捉え、制度の有効活用の観点からディスカッションを行います。次世代の地域のリーダーたる子供達に地域の大人である我々がより良きリーダーであるかを検証し地域の中での教育をどの様にしていくかを模索します。

日本の閉塞感の根本は現在の教育にあると考え我々は既存の教育制度の批判に偏ることなく既存の制度の中で如何に効果的に地域の中で子供達と触れ合い彼等の持つ無限の可能性を

引き出せるかを考えていきます。是非とも新宿区委員会の事業にご参加ください。



<p>アクションプラン 2002年8月10日(土)、11日(日) 午前9時より四谷地域センター、新宿高野前</p>	<p>フォーラム 2002年8月21日(水) 開場：午後6時半 開演午後7時予定四谷区民ホール お問い合わせは 担当副委員長 西原 (090-3069-4683) まで</p>
--	---

真の自立国家とは一日本の歩むべき道

本年度「真の自立国家とは一日本の歩むべき道」と題打つメイン事業に向けて、メンバー同士気が高まってきております。この事業は来る8月27日(火)九段会館にて我が国、日本について考えるシンポジウムです。

当日は、第一部は基調講演、第二部JCプレゼン、第三部ではパネルディスカッションという三部構成で行い、有識者や政財界のリーダー等を招いて、戦後希薄になってしまった日本国民の国家意識、国家観について論じてみたいと考えております。

第二部では、日本を初め、韓国、中国、米国、英国、独国、仏国等の学生に国家観に関するアンケートをとり、その結果を発表するといったユニークな仕組みもあります。

「自分の国について考えた事がありますか？」ホントに素朴な疑問でありながらとても

深い問いかけではないかと思えます。我が国における、憲法問題、税制、選挙、政官癒着、天下り、教育など様々な分野での良い事・悪い事、全て自分の国で起こっている事です。

一つの問題に絞る事よりも、敢て国家といふ大きな取らえ方をしたい。我々が住むこの国の事を1人でも多くの人に考えて欲しい。その気付きの機会を与えられないであらうか。

国家の中枢施設が集中する千代田区から、国を意識する機会にも恵まれている千代田区委員会から、このシンポジウムを開催してみたいと思えます。

グローバル化・スピード化等の言葉でよくその社会を表現する今、国際社会の中で顔の見える、主義主張のある、戦略を保った国家運営をしないと企業と同じく、日本という

国家自体も淘汰されてしまうと思えます。日本が淘汰されてしまわないためにも今、このシンポジウムを開催する意義を感じます。国民のための国家、国家のための国民、否、国民=国家だと思えます。是非とも一人でも多くの方々のご理解とご参加をお願い申し上げます。

2002年8月27日(火) 18:00開会
九段会館 千代田区九段南1-6-5 Tel.03-3261-5521

第1部 基調講演
中祭高德氏(アサヒビール株式会社名誉顧問)

第2部 JCプレゼンテーション

第3部 パネルディスカッション
パネラー 渡辺喜美氏(衆議院議員)
金 美齡氏(台湾總統府国策顧問)
坂本多加雄氏(学習院大学教授)
菅沼堅吾氏(東京新聞政治部長)

地域教育in北区—地域が支える教育—

北区委員会は「快適で活力ある地域社会の創造」のために、新たなコミュニティ作りを目指し力を注いで来ました。私達はインターネットメディアの役割を果たし、「人材」と「考える機会」と「活躍する場」を結びつけることを目指し活動します。

来る2002年9月20日(金)午後6時より、北区王子の「北とびあ 飛鳥ホール」にて、「地域教育in北区-地域が支える教育-」を開催します。前年の事業を引き継ぎ、地域の緊急の課題である教育をテーマとしたこの事業は、「人と地域の絆作り」がその根底にあります。地域の教育は「地域の大人が責任を持って期待された役割を果たす」ことが何より重要で、スポーツ、文化、環境などテーマを絞って活動をしているテーマコミュニティや、町会な

どの地理的な結びつきのローカルコミュニティの活動を「地域の大人が責任を持って期待された役割を果たす」ことであり、「学校評議員制度」もその一つです。

本年度の事業では「学校評議員制度」とそれをサポートするシステムの一つ「地域協議会」の可能性について提言をして行きたいと思えます。

「地域協議会」とはその地域で活動するテーマ・ローカルのコミュニティのネットワークのことで、地域の問題や課題を行政頼みにせず、自ら働きかけ、解決しようとする責任ある大人の集まりです。

志のある市民が集まり、地域の大人と子供が様々な場面で交流し、「今自分に出来ること」から「人のお役に立つ喜び」を感じ、自身

の存在意義を考える。最初は小さな輪でも少しずつ大きくなり、社会を動かしていく。本事業を通じて、地域に広く発信していきたいと思えます。



中野区長選挙公開討論会 -レポート-

6月9日の中野区長選挙に向けて、中野区委員会では5月22日(水)午後7時から「なかのZERO小ホール」で立候補予定者4名をパネリストとしてお招きして公開討論会を開催しました。

当日は、中野区委員会が事前に準備した3問の質問と×形式の質問、会場から質問用紙にて募集した中から選んだ2問の質問を中心にパネリストの考える政策を自らの言葉で語っていただきました。区内200カ所の掲示板へのポスター貼りや前日と当日に東中野駅前・中野駅前での1400枚のチラシ配布などのPR効果もあり、会場には約250名の聴衆が詰めかけました。昨年の都議会議員選挙に引き続いて開催したこともあり、中野区における公開討論会も定着の兆しを見せています。翌日の一般紙各紙朝刊での公開討論会の記事を見ましても、今後の東京JCの公開討論会に向けて弾みとなる開催となったと思います。

中野区委員会では、単に公開討論会を開催するだけでなく、自分たちが積極的に関わっていくというスタンスで今回の公開討論会を準備しました。有権者の参画意識を高める前に自分たちメンバーの区政に対する参画意識を高めようという目的で、メンバーが約3ヶ月間にわたり区政に関する事前勉強会を行いました。また、公開討論会当日も質問をコーディネーターから行ってみたり、質問を会場の参加者から募集

してみたりと前回の開催では行えなかった工夫を加えました。そうした様々な展開を行ったこともあり、立候補予定者がどのようなビジョンを持ち、どのような政策を考えているのかを知ることが出来る公正中立な場として公開討論会を開催するという意義を改めて実感することが出来ました。今後は、より一層公開討論会に対する認知度を高め、他団体との密接な連携によってより規模の大きな公開討論会の開催が実現出来るようになればと思います。



中野区委員会 副委員長 赤星義彰

『第5回港区国際フットサル大会』-レポート-

すばらしい五月晴れに恵まれた2002年5月25日(土)第5回港区国際フットサル大会が、芝給水所公園少年サッカー場において港区、港区教育委員会の後援のもと、(社)東京青年会議所港区委員会、港区小中学生サッカークラブ連合会、(財)港区スポーツふれあい文化健康財団による共催にて、全24チームの参加を得て盛大に開催されましたことをここに報告いたします。

本年はワールドカップの追い風もさることながら、本大会の企画の充実度からマスコミの注目を集め、大会前より新聞各社、NHK・J-wave等テレビ・ラジオ各局の取材を受け、例年になくボリュームの発信につながりました。

参加チーム数においても在日外国人チーム13チーム、日本人11チーム、計24チームと過去最大の規模に達成しました。大会は8リーグによる予選トーナメントで始まり、午後には本大会の主旨である「国際交流」実現の場と

して、即席国際混成チームによる交流試合を開催。言葉、文化の壁を超えボールを通じて次第に心を合わせていく子供たちの様子がとても印象的でした。決勝戦は4年連続の覇者ブラジルのBFC-SIと初出場のMTC美松学園(足立区・日本チーム)の好カード。両者互角のハイレベルな試合展開となり、大会最後はおおいに盛り上がりました。本年度の成績は、優勝がMTC美松学園、準優勝はBFC-SI(ブラジル)、3位はセントメリーAチーム(多国籍チーム)となりましたことを謹んでご報告致します。

去年に引き続きFC東京の方々には、キックターゲットやお土産をご用意頂き、子供たちは試合以外でもおおいに楽しんでくれました。

こうして、第5回大会も無事に終わることができました。新しい人工芝上でのプレーの気持ちよさ、貴重な外国チームとのゲームなど、この日に経験した全てのことを喜んできた子

供たちの生き生きとした表情が今でも目に浮かびます。

最後に、この大会に多大な理解を示し当日、私たちと一緒に汗を流して下さった東京JCの他委員会の皆様にお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

大会委員長 中村鎮雄



ASPAC -レポート-

2002年第52回国際青年会議所(JCI)アジア太平洋会議 ASPAC 仙台大会が5月17日金曜日から20日月曜日まで Entrepreneurs in Action Happiness SENDAI! をテーマに4日間にわたって開催され、アジア、オセアニア各国、地域から多数のJCメンバーが参加し様々な会議やセミナーが行われました。

18日の東京JCナイトでは、西野理事長をはじめ多くのメンバーが出席し、大変盛り上がりました。また、東京青年会議所から、桐野慶太君がワールドスピーキングコンペティションにエントリ

ーし、本年度日本JC国際アカデミー委員長山田幸恵君がAPDC議長に選任されました。



信用と実績で30周年をめざして
御社の大いなる発展に貢献する

事業資金融資

○ その他 不動産・動産・信用ローン・
手形割引等いたします。
信用できるサブバンクをお探しでしたら...

03-3588-0151 (代)

AWAJI
総合リース商社 淡路総業株式会社
東京都港区赤坂1-8-5
http://www.awaji-sogyo.co.jp
E-mail master@awaji-sogyo.co.jp

ちよと おじやします!

「中長期ビジョン
策定会議訪問」
2002年6月21日事務局メンバーサロン

回る重ねる毎に皆さんをダイブな世界へとといざない続けるこのコーナー。今回お邪魔したのは中長期ビジョン策定会議です。

そもそも中長期ビジョンとは何でしょう? 例えれば航海における海図のような物でしょうか。組織が正しい方向へ進むために必要な地図にあたる物が幾つかあって、短期的(1年程度)なものも所信や方針、長期的なものも理念や綱領であるなら、それらの中間を埋めるものが中長期ビジョンと言えるでしょう。

いわば東京JCの方向性を定める根幹とも言うべきものですが、現在のビジョンは97年に策定されたもので、概ね5年を期間としていた事もあり内容の精査がされているというわけです。大野耕壯議長のもと新たな

回を重ねる毎に皆さんをダイブな世界へとといざない続けるこのコーナー。今回お邪魔したのは中長期ビジョン策定会議です。

そもそも中長期ビジョンとは何でしょう? 例えれば航海における海図のような物でしょうか。組織が正しい方向へ進むために必要な地図にあ

ビジョンをひとつの形にすべく、現在東京JCが抱えている問題を洗い出しながら、これからの運動展開や組織のあり方がどうあるべきか熱く議論されておりました。

一年も半ばを過ぎそろそろ次年度体制が立ち上がってくる昨今です。皆さんもこれを機会に指針や中長期ビジョンに目を通されてみてはいかがでしょうか?

広報特別委員会
副委員長
田賀谷 浩



LOM 便り

仙台JC

JCI-ASPAC 仙台大会を終えて3週間ほどが経過しました。ようやく我が社の社員も、日々私が出社することに違和感がなくなってきました。他から遅れて、いよいよ仙台JCもLOM事業がスタートしようとしています。ASPACは、主管であって主催でないというC特有の開催方法。当然ながら全てが自由なわけではありません。その思いからか、ASPAC前の各委員会の構想は、とてつもない規模の事業を行うんだと大いに意気込んでいました。ASPACが通常のLOM予算の5倍以上というかつて経験したことのない規模であったための錯覚もあったのかもしれません。

私たちに残ったものは、そこはかたない達成感と確かな自信でした。開催前には、大きな大会を開催する意義はどこにあるのだろうかと私自身も疑問視することもありました。やってみて初めて大会を行う意義が見えてきました。LOM全体で一つの目的に向かって活動することによる一体感とLOM内外と問わずこれまで体験したより多くの方々にご協力をいただくための運営方法、他委員会、外部の方々との連携など私たちがASPACから学んだことは数多くありました。

ASPACが終了した今、もう一度自己を分析して、私たちが得たものを十分に確認した上で、新しいスタートを切ることが私たちの道です。(社)東京青年会議所の皆様のご協力、ご参加に感謝し、仙台での「Happiness」が皆様のもとで芽生えることを願っています。

(社)仙台青年会議所 理事長 高橋 互

FIFA World Cup™ 観戦記

FIFA World Cup 2002 KOREA/JAPAN™の開催。スーパープレーに酔いしれ、日本を国家として強烈に意識するこの1ヶ月間は、私にとって至福の時。開幕戦のフランス敗戦。これはもう波乱の予感。そして日本代表の活躍。列強の敗退。韓国の躍進……。皆さんは、いかがでしたか?

そんなワールドカップを心待ちにし、サッカーが呼吸するのと同じくらい重要なサッカーバカがレポートいたします。

6/9 日本VSロシア
私のワールドカップは1978年アルゼンチン大会の紙吹雪のなか、疾走するマリオ・ケンペスの姿から始まりました。当時小学生でサッカーを始めた私にとってそれはもう大変な衝撃でした。何しろTVの向こうでは大人の達が狂喜乱舞!!しかも裸で!?

夕方5:00会場に入るなりその光景が現実となって目の前に広がっていました。20:30キックオフ。出だしから日本は全員が監督の戦術を自分達なりに考え、以前よりも一つ上のレベルでプレーしていたように思います。(フラット3の弱点も克服し!)後半6分、柳沢のワールドクラスのポストプレーから稲本のゴール。この瞬間のスタジアムはこの世の光景とは思えないくらい凄かった!当然私も隣の田辺理事、知らないおじさん、子供、なぜか女性がいらない)etcと抱き合い涙、涙..(最国歌斉唱から涙、涙でした!)そしてタイムアップの瞬間は今までの観戦では味わったことのないような幸福感に包まれました。帰り際にスタジアム出口でボランティアの方たちと握手、ハイタッチ、抱擁?。その姿は今までの日本では考えられないくらいホスピタリティに溢れていました。

ワールドカップは国と国との代理戦争と言われ、その国の「政治力」「経済力」「国民性」「国家観」などの要素が高いレベルで融合しないことには勝ち残って行けないと思います。

普段JC活動を通じて「国家」について考える機会が多い我々にとっても良い再確認の場になったのではないかと思います。

ちなみに6/16 韓国 水原(スウォン)にてスペインVSアイルランドを観戦してきました。韓国の熱気、アイルランドサポーターの素晴らしさはまたの機会に。

6/9 ロシア戦勝利 (横浜国際)
6/16 スペイン対アイルランド戦観戦中 (韓国水原スタジアム)
6/16 韓国水原にてスペインサポーターと友情の輪

「太閤暗殺」(光文社刊)

岡田秀文 著 定価¥1,500(税別)349ページ

メンバーの皆様、こんにちは。本年度Jラスタイヤーを財政顧問として活動させて頂いております元山です。足掛け9年におよぶJライフでしたが、十二分にJCを堪能させて頂きました。現役として残り半年、自分に出来る事はどんな事でもお役に立ちたいと考えており、今回この原稿を喜んでお受けさせて頂いた次第です。それでは本題に入りますが、現在私は海外での仕事を中心となっており、日本と中国を行ったり来たり生活であります(実はこの原稿も上海で書いております)日々多くの変化を体験しておりますが、中でも読書の時間が飛躍的に増えたといえることが言えます。以前から比較的読書は好きでしたが、どちらかというにすぐ役に立ちそうなビジネス書であったり、ノウハウ本といったジャンルのものが好きでした。しかし、最近では様々な環境の変化からくるストレス?を和らげるべく、ミステリーやサスペンス、又は文芸物といったジャンルを好んで読むようになり

気になる一冊

ました。そんな皆様にお勧めする「気になる一冊!」は、第5回日本ミステリー大賞・新人賞を受けた岡田秀文氏の『太閤暗殺』という歴史長編ミステリーです。

時の権力者、太閤秀吉の暗殺を企てた関白・豊臣秀次の側近木村常陸介、その常陸介の命を受けたのが盗賊として名高い石川五右衛門。その五右衛門と最後まで死闘を演じるのが京都所司代として活躍する五奉行の一人、前田玄以。物語は最後の最後まで息をつかせぬ展開を繰り返す。特に終盤の二転三転するストーリーは圧巻でした。これほど短時間で読破させられた本は久しぶりであったことから、私の気になる一冊に取り上げさせて頂いた次第です。本格的な海外での駐在は初めての経験であることから、日本語、特に新聞や本といった活字の有難さを身をもって経験し、日頃から特に忙しい現役メンバーの皆様、改めて読書の大切さをお伝えできたらと思います。これからも、もっと素敵な本に出会えますよう、良い本がありましたらぜひご紹介してくださいね!宜しくお願いします。

元山祐介(もとやま ゆうすけ)
S37.6.16生 A型
94年入会 2001年度専務理事
2002年度財政顧問「ヒリッと胸を穿つ勇気は抜群!!」

委員会便り

政治・行政

政治・行政政策委員会委員長 古屋正隆

政治・行政政策委員会では、今年度は、各地区委員会において区長選挙の際などに行う公開討論会の支援を行うほか、東京都議会に対して、社会に必要であると考えられる条例の制定を働きかけるべく活動をしています。

公開討論会は、選挙の公示日以前において立候補予定者の方々にお集まりいただき、ご自身の言葉で政策を語っていただくものであり、自らが政治の主体であるべき市民ひとりひとりに、政治に対してより関心を持ってもらうための重要な事業であると位置づけています。

また、条例の制定ですが、国や社会を変えていくためには、まず首都である東京においてその変革が必要であり、地方からのうねりが大きくなっていけば、それはやがて国をも動かしていけるものです。ただ、実際変革をもたらすためには、提言にとどまらず、実際に必要と思われる条例の制定を働きかけ、これを現実させていく必要があります。今年度、当委員会では、以上のような考えからNPOに対する経済的な支援とそれに伴う税制上の優遇措置をテーマとして、現在、その研究を進めています。



経済政策

経済政策委員会委員長 田上睦美

経済政策委員会は現代の経済に関する諸問題点を追求し、中小企業の立場から考え、そして東京青年会議所の中の経済担当委員会として、政府行政機関に政策を立案することを主な役割としている。その主な活動手段が経済フォーラムの開催である。本年も4月18日に文京シビックホールにおいて、竹中経済財政政策担当大臣をはじめ、伊藤忠商事社長など、その他経済界の一線を担う講師陣を迎え基調講演、パネルディスカッションを行った。その中で10分という時間であったが税制改革・金融改革・新経済需要の創出を柱とする委員会からの政策提言も披露した。まさに中小企業の立場から国にかかわり、国を動かすことに関わる大きな醍醐味を感じられることがこの委員会の一の特色といえる。がんばった人が報われる社会、そしてがんばった人が報われる委員会をめざして活動を行っているので、興味のある方は気軽に経済政策委員会にたずねてきていただきたい。



渋谷区

渋谷区委員会委員長 今井 勉

皆さん、こんにちは！本年、渋谷区委員会は、地域に根ざした団体を目指して日々活動を続けております。

先日行われました、わんぱく相撲渋谷区大会 - 2002におきましては、本年より渋谷区教育委員会と共催となり行政や地域の各団体との協力が一層進み、大いに盛り上がった大会とすることが出来ました。

また、今年は、渋谷区政70周年ということもあり、様々な、区の事業にも協力をしています。その中でハチ公のふるさと秋田県大館市との交流では、大館の雪合戦大会への渋谷区内の小学生の参加に協力し、渋谷区と大館市の小学生の交流の一助となりました。(もちろん、渋谷区委員会と大館青年会議所の日頃の交流が、これを支えています。)

さらに、大会に参加した小学生が、こうした交流のきっかけを作ったハチ公像に感謝を込めて、大館駅前・渋谷駅前の両方のハチ公像の清掃を行いました。大館駅前の清掃では、地元の新聞に取り上げられ、渋谷駅前の清掃においては、小倉渋谷区長も参加され、MXテレビ・地元ケーブルテレビ、読売・毎日・朝日の各新聞にも取り上げられ小学生たちの活躍が大きく取り上げられました。

このあと、11月に渋谷区くみんの広場において、大館の小学生が渋谷にやってきて、交流をする予定です。

このような様々な地域活動を通じ渋谷のイベントには、渋谷区委員会の仕掛けありといわれるよう、メンバー全員でこの活動を作り上げていきたいと思っています。



目黒区

目黒区委員会委員長 下村 旭



まず、5月11日(土)に行われたわんぱく相撲目黒区大会では目標としていた子ども達の参加人数を大きく超える252名という数字を達成し、盛況となったことをご報告し、御礼の言葉とさせていただきます。参加した子ども達が2年連続して大きく増加したのは、いままでも地域で行ってきた活動が着々と浸透し、実を結んできた結果ではないかなと感じております。

そして、本年度は事業がもう一つ、9月に目黒区長選挙公開討論会、10月には防災フェスティバル目黒と例年になく多くの活動が行われる予定となっております。どちらの事業も地域で活動されている多くのNPOや地域団体、行政、そして多くの「志民」と実行委員会を立ち上げ、準備をすすめていくものであり、より地域に根ざした目黒区委員会として積極的に展開していく予定であります。

青年経済人の集まりである我々JCが中心となって、地域の活性化、そして「明るく楽しく住める目黒を目指して」熱い思いを持って多くの事業を成功させたいと思っておりますので、ぜひとも多くの方々の参加をお待ちいたしております。



練馬区

練馬区委員会委員長 河野孝史



本年度練馬区委員会は、事業として2つの大きな柱があります。その一つ、第26回わんぱく相撲練馬区大会は5月19日(日)に開催し、400名を超す小学生が集まり、協力者も100名の方々に手伝いを頂き、またテレビ・新聞各々2社の取材も受けるなど大会も大盛況のうちに終わることが出来ました。

この勢いを、もう一つの事業である「ねりまエコバッグ大作戦2002」に繋げねば・・・と考えています。

「ねりまエコバッグ大作戦2002」は、昨年からの継続事業で、環境+経済をテーマにグリーンコンシューマーの育成・商店街の活性化を目的に事業を開催します。

この運動は、事業としては1日開催ですが、地域市民・NPOの協力を得て継続性を持たなければ意味がないのです。単なるエコバック配布のキャンペーンに終わってしまわぬ為、本年度は特に商店街が継続してエコバックセール(仮称)を開催していける様、地域市民と商店街とが本音で向き合い、信頼関係を築き上げるような事業展開をしていく予定です。

メンバーの皆さん、ご家族での参加お待ちしております。決してエコバックを貰う為ではなく・・・ですよ。



杉並区

杉並区委員会委員長 酒井 浩



地元密着の委員会づくりを

マンパワー不足が悩みのタネですが、いざとなるとどこからともなく集まってくるのが杉並区委員会。5月19日のわんぱく相撲杉並区大会は400名ほどの幼児・児童が参加して、ソーラーカーや警視庁騎馬隊の馬が登場するというイベントまでセットしたものの、「運営面は大丈夫か？」と委員長は内心ハラハラドキドキ。そんな気持ちか通じたのか、当日にはどこからともなく運営スタッフが集まってきて無事に終了。地元企業から提供された協賛物品を賞品にしてのジャンケン大会で閉会式まで盛り上がり、子供たちの喜ぶ顔がメンバーにとって何よりの慰労となりました。

このほか当委員会では3年前から「環境」をテーマに活動しており、地域の関係団体と一緒に勉強会やイベントにも参加。また、地元商工会議所や法人会青年部など、地域の団体とも積極的かつ多面的に接点をもって活動しています。

とにかく頭も体も使って動くところがJCの良さ！と捉えて、今後は未入会の地元青年経済人に対して各種事業に参加してもらうなど、まずは我々の活動を「体感」してもらおうと、体当たりの会員増強を目指します。



IT時代のビジネスツール・写真入り名刺！

あなたの名刺にアドレスを

“名刺からはじまるコミュニケーション”
IT時代、E-mailがビジネスにおける情報交換
ツールとなった今、E-mail・ホームページの
アドレスを伝えるのも名刺の大切な役割です。

“写真入り”だから……使い方イロイロ！
顔写真を入れて→営業マンの印象度アップ！
商品の写真を入れて→商品案内としてプチカタログに变身
お店の写真を入れて→ポイントカード、メンバーズカードに！！



東京本社・営業部
西山 龍生
TAISUO NISHIYAMA

TEL 03-3621-7312 (直通)

DAICO
DAICO株式会社 130-0015 東京都墨田区横綱1-11-1
TEL 03-3621-7311 FAX 03-3621-8592
HPアドレス http://www.daicol.co.jp
E-mail: info@daicol.co.jp

※不在の場合は、本社がお呼び致します。

DAICO株式会社

〒130-0015 東京都墨田区横綱1-11-1
TEL 03-3621-7311 FAX 03-3621-8592
HPアドレス http://www.daicol.co.jp
E-mail: info@daicol.co.jp

9月例会・新日本創生フォーラム

「日本V計画」(仮称)

東京青年会議所9月例会は、関東地区協議会(井下泰伸会長)主催の新日本創生フォーラムを後援し次のように開催される。

社会が多様化しグローバル化する中で、日本が国民の活力ある生活を維持し、世界のリーダー足らんとするには、ここで抜本的改革が必要であり、国家の社会システムを変革し、同時に国民の意識改革を促すには、国家の成り立つ枠組みそのものを根本から見直すべきで、そのために道州制の導入がいまこそ必要であるとの観点から基調講演、パネルディスカッションが行なわれる。

9月例会

新日本創生フォーラム

「日本V計画」(仮称)

2002年9月7日(土)午後1時30分～4時30分

東京厚生年金会館大ホール(新宿区新宿5-3-1TEL03-3356-1111)

講師・第1部基調講演

諸井 虔太平洋セメント(株)相談役
 石原慎太郎東京都知事(ビデオ出演)

・第2部MCプレゼンテーション

・第3部パネルディスカッション

福田昭夫栃木県知事

諸井 虔太平洋セメント(株)相談役

鳥 伸彦氏・ジャーナリスト

他に1名のパネリスト

宮崎 緑千葉商科大学助教授(司会)

(主催: 関東地区協議会 共催: 8ブロック協議会)

後援:(社)東京青年会議所

講師は出演者の都合により変更になる事があります。



諸井氏



福田氏



石原都知事



鳥氏



宮崎氏

わんぱく相撲全国大会

梅雨空吹き飛ばし熱戦展開
 第14回わんぱく相撲
 東京都大会

第14回わんぱく相撲東京都大会は、6月23日(日)午前9時30分から都下36地区71チーム210名のわんぱく力士が参加して、墨田区の両国国技館で開催された。

朝早くから応援に駆けつけた父母、友達などが大声援を送る中、選手たちは7月末の全国大会出場を目指し熱戦を繰り広げた。個人、団体の成績は次のとおり。全国大会には団体上位4チームと東京選抜チームが出場する。



©ちばてつや



友達や父母も枚敷から大声援

	6学年	5学年	4学年
横綱	田邊直人(江東A)	安彦剣太郎(葛飾A)	山田隆昌(江戸川A)
大関	伊藤駿(東村山A)	武正桂季(立川A)	長谷山正典(練馬A)
関脇	大塚匠(葛飾A)	橋本良介(むさし府中A)	平塚真介(江東A)
関脇	藤澤良(葛飾B)	久我明大(豊島A)	上田道彦(足立B)
小結	佐々木哲平(大田A)	内田昌宏(台東A)	市川熙(千代田A)
小結	堀江恭依(小平A)	辻大海(江戸川A)	安藤健吾(調布A)
小結	長谷川順(中央A)	芝匠(町田A)	萩谷琢磨(世田谷A)
小結	網修次郎(練馬A)	山本峻(文京A)	小林良太(豊島A)



神辺東京ブロック会長

第14代横綱。左から6年・田邊君、5年・安彦君、4年・山田君

団体

優勝	江東Aチーム
準優勝	足立Bチーム
3位	葛飾Aチーム
4位	江戸川Aチーム



第18回わんぱく相撲全国大会

第18回わんぱく相撲全国大会(財団法人日本相撲協会、社団法人東京青年会議所共催)は、全国224青年会議所から148チーム444名のわんぱく相撲力士が参加して熱戦を繰り広げる。

日時 2002年7月28日(日)

午前7時30分会場 8時40分選手入場 9時開会式

場所 両国国技館



わんぱく相撲
 全国大会実行委員会

【問い合わせ】わんぱく相撲全国大会実行委員会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3青年会議所会館2F
 (社)東京青年会議所内 担当: 嶋田、須之内
 TEL 03-5276-6161 FAX03-5276-6160
 (「わんぱく相撲」は(社)東京青年会議所の登録商標です)



TOKYO JC NEWSは環境対応大豆油使用インキを使用しています



TOKYO JC NEWSは古紙配合率100%再生紙を使用しています。